

「学校の統合」を提言

少子化に伴い、限られた学校教育資源の有効活用を図るという観点から、学校規模の適正化に向けたさまざまな取り組みが全国各地で行われています。それは本町においても例外ではなく、年々進行する小・中学校の小規模化を契機に、新しい時代を展望した教育の在り方や学校規模の適正化が課題となっています。

町教育委員会は、平成19年度から「美郷町立学校の将来について考える」事業に着手、事業2年目となる平成20年度は、子どもたちにとって望ましい教育環境整備の指針とするため、6月に町内の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者をはじめ、有識者、教育関係者らで組織する美郷町学校将来構想検討委員会(矢尾奎二委員長)へ学校教育将来構想の方向性について検討を依頼しました。

この依頼を受けて同委員会では、長期的な展望に立った学校規模の実現について、多方面からさまざまな論議を行い、8月に町主催で実施した地区別学校教育懇談会における保護者、地域住民の思いや意見等をくみ入れ総合的に検討を行った成果を、このたび三つの提言としてとりまとめました。ここでは、11月27日に提出された提言の概要を紹介します。

「美郷町学校教育将来構想の方向性について」の提言書(概要)

1. 小・中学校における適正な学校規模について

【提言1】美郷町小・中学校における適正な学校規模について次のように提言します。

小学校	
各学年の児童数	50人以上
1学年の学級数	2～3学級
1校あたりの学級数	おおむね12～18学級
中学校	
各学年の生徒数	50人以上
1学年の学級数	2～4学級
1校あたりの学級数	おおむね6～12学級

【提言の趣旨】

適正な学校規模については、国・県の示す基準を根拠に美郷町望ましい学校規模を考える委員会より意見書が示されています(広報美郷平成20年4月号12ページ参照)。

美郷町学校将来構想検討委員会においても、この規模を美郷町として適正な学校規模とすることが望ましいと考えます。

2. 適正規模に再編する方策について

【提言2】美郷町の今後の財政状況と少子化を考慮し、小・中学校を適正な学校規模にするための方策として、次のとおり提言します。

小・中学校を適正規模に再編する方策として、「学校の統合」の方策が望ましいと思われる。

【提言の趣旨】

小・中学校を適正な学校規模に再編する方策として「通学区の見直し」、「学校選択制」、「学校の統合」この三つの方策が考えられます。

①通学区の見直し

通学距離および時間に考慮し通学区を見直した場合、各学校が小規模化していく中で、規模が若く大きくなる学校が出てくる反面、さらに規模が縮小する学校が現れる恐れがあります。

②学校選択制

学校の序列化や人数の偏りなどの学校間格差が発生し混乱を招く恐れがある等、総合的にみて導入は難しいと考えられます。

③学校の統合

小学校は旧町村の枠組みで適正規模を概ね満たすことができ、中学校は平成25年度以降、適正規模を満たすことができない学校が生じます。



▲美郷町学校将来構想検討委員会



▲11月27日、町教育委員会佐藤委員長へ矢尾委員長より提言書が手渡されました

この三つの方策について総合的に勘案した場合、適正規模に再編する方策として「学校の統合」の方策が望ましいと思われる。

3. 長期的な展望に立った学校適正規模の実現について

【提言3】美郷町の学校を適正規模に再編する方策として「学校の統合」を選択する場合、長期的展望に立った学校適正規模の実現について次のとおり提言します。

小学校については旧町村ごと1校に統合し、中学校においては町内1校に統合することが望ましいと思われる。ただし、児童生徒の通学についての交通手段(スクールバス等)や適正規模を満たす学校施設の検討、通学区の境界区域についての弾力的運用の検討、幼保・小・中学校の連携、保護者や地域住民の願いについて十分に配慮されたい。

※提言書の詳細は、町ホームページをご覧ください。

この提言を参考としながら、町教育委員会では平成20年度中に学校教育将来構想を策定する予定です。

町教育委員会(千畑庁舎) 学務課
☎0187(84)4914



町の話

秋田わか杉国体の感動再び バドミントン日本リーグ2008美郷大会

11月30日、バドミントン日本リーグ2008美郷大会が総合体育館リリオスで開かれ、一部リーグの男女各1試合が行われました。

秋田わか杉国体感謝大会と銘打たれた今大会。男子は「トナミ運輸 対 日立情報通信エンジニアリング」、女子は「北都銀行 対 NTT東日本」の試合が行われ、会場を訪れた

皆さんは、昨年の秋田わか杉国体を思い出すかのように熱い声援を送りました。なお、地元秋田の北都銀行は、善戦及ばず0対3で敗れました。

また、前日29日、秋田わか杉国体で富山県チームを民泊で受け入れた鶴水行政区で、昨年の富山県成年男子バドミントンチームの監督を務められた今泉勉監督率いるトナミ運輸の激励会が開かれ、1年ぶりの再会を喜び合いました。



▲北都銀行 対 NTT東日本では地元応援団の熱い声援が送られました。



トナミ運輸の今泉勉監督(写真中央)と石丸昌之部長を囲み、わか杉国体の思い出話に花が咲きました。

男女共同参画社会づくり基礎講座 元気の出るおらほの食材講座

11月24日、六郷保健センターで男女共同参画社会づくり基礎講座「元気の出るおらほの食材講座」が開かれました。

羽後町西馬音内で古民家を利用しカフェ・レストランを展開している、(株)櫻山代表取締役の榎木鈴子さんを講師に、「私が歩んできた道と『地域の食』」と題した講演のほか、講座実行委員会による地場産の大根などを使ったスープなどのレシピ紹介や試食が行われました。

町内外から参加した約50人の皆さんは、身近な食材で男女ともに手軽に出来る調理方法を学びました。



◀講師を務める榎木鈴子さん



▲地場産食材たっぷりのスープ作り実演



▲すばらしい絵画をありがとうございました。

大曲母子医院院長 佐藤寅男さんからの贈り物 六郷小学校に旧校舎を描いた絵画が寄贈されました

12月4日、六郷小学校(三浦美保子校長)に、大曲母子医院院長の佐藤寅男さん(大仙市)から、旧校舎を描いた絵画が寄贈されました。

古い建物を好んで描いているという佐藤さん。当時、六郷小学校の旧校舎が取り壊されることを聞き、すぐさま駆けつけ描かれたそうです。

寄贈のきっかけは、佐藤さんが倉庫を整理している時にこの絵画を見つけたこと。児童代表として受け取った高橋聖也さんと佐藤瑠菜さんは、「すばらしい絵をありがとうございます。この絵をこれから学校で大切にしていきたいと思います。」と感謝の気持ちを述べました。

絵画は、保護者の皆さんからも見てもらえるよう、校内に展示される予定です。

統合三年目の節目を記念して 美郷町遺族会発足三周年記念式典

11月23日、美郷町遺族会(熊谷良夫会長)発足三周年記念式典が雁の里温泉湯とぴあで開かれ、約40人の会員の皆さんが参加しました。

町内に建立されている忠魂碑を見学した後行われたこの式典では、はじめに戦没者と亡くなられた会員へ黙とうが捧げられました。また、長年役員を務め、同会に尽力された方々に感謝状が贈呈されたほか、秋田県遺族連合会の田口事務局長による記念講演が行われました。



▲各地区を代表して感謝状を受け取った皆さん(左から佐藤新一さん、藤岡テイさん、佐々木輝男さん)